

四谷の

千枚田だより



第135号

第二十回全国棚田(千枚田)サミット 未来へつなごう実りの大地

〜棚田を基点とした地域の活性化に向けて〜

十月二十三日(木)〜二十四日(金)、山形県上山市で開催され、鞍掛山麓千枚田保存会から小山泰弘、今泉雅男、松下誠、高橋孝行、小山舜二が参加した。

「概略」 全国一千余りの棚田は経済性や効率性の重視、耕作者の減少、担い手不足から過疎、高齢化が深まり荒廃の危機に直面している。棚田の百姓は数々の問題を抱え、生物多様性に富んだ日本の原風景、先祖の遺産「棚田」の継続、展望に光を求め参加している。

基調講演 結城登美雄氏(民族研究家) 誰が棚田を守っていくのか?

〜私の中山間地域報告〜

基調講演について(舜)はまた、根っこの浅い民族研究家の嘶ぐらしいに鷹を括っていたが、講演の内容が百姓の底辺(基本)、地道な活動が満載、淡々とした口調に多くの百姓が我が事と、「うん うん」と目頭を



基調講演 来年開催の佐賀県玄海の法被姿が多くみられた。



棚田現地見学



田んぼの広いのにびっくり



棚田保存会意見交換会

を代弁した有意義な講演であり「嘶」などと思いついていた我が身のあさはかさに反省の念を抱くとも上山市・山形県と講師に感謝申し上げます。

棚田現地見学会

「大蔵・榎平の棚田」

平坦の水田が並び山裾の一部が傾斜地の今までにない棚田風景であった。地元の説明では戦時中の食糧増産のため中学生が動員され、耕地整理が行われた由緒ある棚田と聞き、感動した。

棚田保存会意見交換会

昨年、試行された同会は好評を博し、本年は全国の棚田保存会から二十名が選ばれ、棚田博士 中島峰広先生をコーディネーターとして五グループに編成。年に一回の交流の場であり、互いに切磋琢磨し、活動の向上、地域の発展につなげるための模索を真剣に取り組んだ。第三グループは真剣な議論を呈し、(舜)の提案した「棚田を活かす」を大テーマとし、地域活性、生物多様性・稲作体験学習、都市交流等々、棚田を核に、幅広く活用することが棚田保存継承に繋がると纏め発表した。

第一分科会

パネルディスカッション テーマ「棚田を守る人づくり、組織づくり」リーダーの人材発掘、他産業の棚田参入等のポイントについて議論した。(保存会四名が)

て議論した。(保存会四名が) 第二分科会 パネルディスカッション テーマ「農業を基点とした六次化、農商工連携による棚田地域の活性化」実践事例を報告。棚田地域の活性化について議論した。

第三分科会

パネルディスカッション テーマ「多様な交流による棚田地域の活性化」棚田を農村景観、農作業体験・農家民宿・グリーンツーリズムを取り入れ、棚田を活かした交流人口の拡大の可能性について議論した。

第四分科会

パネルディスカッション テーマ「地域農業の継続を実現するための仕組みづくり」上山市における高齢化・担い手不足にある棚田地域の継続した維持管理の可能な仕組みについて議論した。

収穫感謝祭のお知らせ

十二月七日(日)、保存会は恒例となった「みんなで感動 収穫感謝祭」を連谷お助け隊・棚田っ娘共催で初冬の一日を楽しむ。

当日は十時〜十二時三十分までに六白の餅(あんこ、草餅など)を振る舞う。また、田畑を荒らしまくった猪の捕獲供養に「しし汁」やイカ焼き、焼肉など豊富なメニューを考えている。余興に「川西 忍とゆかいな仲間」のふれあいコンサートでの協力出演も楽しみである。



賑わった感謝祭(昨年)

資金ゼロでの開催。皆さんのご理解をいただき、多くなくても結構です。協力金箱をフルに活用していただければとっても嬉しいです。

地域行事

十月十九日、連谷公民館、小学校は恒例のふるさとウオーキングとグラウンドゴルフを行った。参加者は地元「吉良屋さん」の好



意で田峰観音までバスで移動。まず観音様を拝観。郷土歴史研究家の今泉宗男さんから観音様や田楽、念仏踊り、田峰歌舞伎の云われを伺った後、田峯城へ移動、戦国時代の菅沼藩や山家三方衆の歴史などを興味深くお聞きし、昔から田峯地区と連谷地区の結びつき、また、現在の木造校舎は「連谷小学校をベースに造られた」と聞き、感慨した。帰路は大木和田林道をへたへたと休んでは歩き、歩いては休み、なんとか学校まで辿り着いた。

三遠南信サミット

十月二十七日、浜松市アクトシティ浜松を会場に行政、経済界、大学、地域住民約六百人が参加。県境を接する東三河、遠州、南信州の三圏域(三十五市町村)が官民一体で開かれた。午前中に開かれた住民セッションにおいて(舞)は「祭り街道」に出席。現在、祭り街道は国道一五一号を下り新城まで延びたが今一つ、国指定の無形文化財に重きを感じる。各地にひっそり継承されている伝統・伝承行事などの掘り起こしが肝心である。また、盆行事(念仏踊り)等は開催日が各地とも同じであり、広報、参加呼びかけに難がある。と提案した。

「三遠南信地域の可能性を探る」と題したシンポジウムでは社会資本の整備を受けた地域づくりについて意見交換がなされた。また、「道」の「技」「風土」「山・住」の四分科会のうち「道」では三遠南信道などの整備効果などが検証。東栄町や豊根村の首長は「今までは国道一五一号を基幹として新城、豊川、豊橋方面を利用してきたが三遠南信道の供用で買物や通院などに浜松方面に選択肢が広がった。効果の大きい三遠南信道へのアクセス道路を並行して整備していくことが肝心と指摘した。サミット宣言では三遠南信道の早期実現、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現を宣言した。

ふるさと水と土指導員連絡会議

十一月六日、二十六年度の連絡会議(県内九組織)が道の駅どんぐりの里いなぶ「どんぐり工房」(豊田市武節町)で開催、原田英史、小山舜二が出席した。

一、事例発表 ① 稲武地区の取り組みについてと題して「蕎麦の栽培、収穫、料理研究、蕎麦打ち講習などによる都市住民との交流」について中馬蕎麦倶楽部 山内指導員の説明があった。② 県営事業ふるさと水と土ふれあい事業「稲橋地区」の概要(進捗状況)を豊田加茂農林水産事務所 塚本技師の説明があった。二、蕎麦打ち体験。けっこう難しくもあり、楽しくもあった。

三、意見交換会は各指導員から提起された課題にアドバイス、事例など、意見交換、有意義な会であった。四、県営事業現地見学会は意見交換会に熱中、時間切れで中止となった。

事業

- ・ ㈱丸八製菓 五平餅用米出荷
- ・ ㈱横浜ゴム 薫出荷

今後の予定

・ 十一月十六日(日)、連谷お助け隊主導による景観整備活動 沿道、生活道の除伐ほか

行 平成二十六年十一月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二